

2013.11.17 「いと小さき者」 ミカ書4:14~5:3

中国からの熟語に「四面楚歌」という言葉がある。孤立無援という意味。中国を一つの国に統一しようとしていた漢の軍隊が、楚の国を包囲したところ、楚の国の項羽(こうう)という武将は、四方に陣取っている漢軍の部隊から楚の国の歌を聞く。その時、敵の大軍に恐れ自国裏切って全て敵になってしまったということに気づかされる。項羽は四面楚歌になったということ。ミカ書 4:14 は、まさにそういう絶望的な状況に置かれた中で言葉がつづられている。

しかし、《エフラタのベツレヘムよ／お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために／イスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。》(5:1)と言って、希望の言葉が記されている。この言葉はマタイ 2:6 にキリストの預言の言葉としても記されている。これは、絶体絶命の四面楚歌の状況にあっても、希望を失うなとミカ書は記す。すなわち、どこを見ているのか、何に望みを置いて生きているのか？ 神を見よ、神にのみ望みを置いて生きよ…キリストが私たちに与えられているのではないかというメッセージである。

もう一つ見ておきたい。聖書のメッセージは、「いと小さき者」へ向き合うことを教えている。救い主を捜し求めた博士たちが、もしキリストを力強い、御腕を持った方、この世的な権力、財力、知力こそが力であり、私たちのキリストであると思い込んで、救い主を捜し求めていたとしたら、幼子イエスにお会いすることはなかったであろう。イスラエルの崩壊も、この世的な力を求めて、大きくなろう、強くなろう…というところから来ていると言ってもいい。私たちはどうか？ 大きいところへと心が向いていないか？ その時、私たちは「いと小さき者」を見失ってしまいやすい者であることを覚えたい。

もうすぐ、アドベントがおとづれる。今一度、キリストが赤子としてこの世に生まれたこと、いと小さき者として来られたことの意味を深めて行きたい。(神谷)